

Kitami Institute of Technology

北見工業大学

# 学報

平成16年 1 月 事務局総務課発行 第201号

## 海外衛星放送受信システム



(関連記事 18ページに掲載)

## 目 次

年頭挨拶	今年のテーマは「チームプレーと進化」	3
会 議	第8回運営諮問会議の開催	5
入試関係	平成16年度推薦入学選抜試験の実施	7
	平成16年度大学入試センター試験の実施	7
研究助成	平成15年度科学研究費補助金交付決定	7
	平成16年度科学研究費補助金の申請状況	8
	平成15年度国際研究集会派遣研究員（第 期）決定	8
	平成15年度 トステム建材産業振興財団助成金交付決定	8
	平成15年度民間等との共同研究の受入状況	9
	平成15年度受託研究の受入状況	9
	平成15年度奨学寄附金の受入状況	10
人 事	人事異動、新任者紹介、住所変更等	11
	海外渡航	12
国際交流	2003年日本留学フェア（ベトナム・タイ）に参加	14
	中華人民共和国武漢科技大学校長による特別講演会を開催	17
諸 報	北見工業大学永年勤務者表彰式及び文部科学省永年勤続者表彰伝達式	18
	ファカルティ・ディベロップメント研修会を開催	19
	海外衛星放送受信システムを設置	19
日 誌	11月・12月	20

\* 住所変更等については、1月23日まで掲載しました。

= 年頭挨拶 =

## 今年のテーマは「チームプレーと進化」

学長 常 本 秀 幸

皆さん明けましておめでとうございます。

年未年始は、暦のめぐり合わせがよく例年になく長い休みを取ることができたと思います。私は自宅でのんびりと過ごさせてもらいましたが、皆さんも良いお正月だったでしょうか。この長い休み、これからの法人化に向けた膨大な作業のための骨休みだったかと思っております。

昨年は、国際的にはイラクでの悲惨な戦い、あるいは年末のイランの大地震と、心が痛む報道が目につきました。日本もイラク戦争の影響を受けるなど株価が低迷し、経済不安の状況が続きましたが、阪神ファイバー効果でしょうか、秋口から少し明るさを取り戻して来たと言われていると思います。

しかし、北海道は冷夏と台風被害、これに追い討ちをかけるように9月には大きな地震があり、まさに多難な1年だったと思います。特に地震では、苫東の原油タンクで火災事故が起き、何日も消火できない状況が報道され、世界最強の技術力、世界一安全な国と言われた自信がもろくも崩れたような気がいたします。昨年は技術的問題などによる事故が多く、例えば、東京電力の原子力発電所の原子炉停止、H2Aロケットの打上げ失敗などがその象徴になっておりますが、工学に携わる我々にとって、このような事故に無関心ではられません。効率化、高度化一辺倒の技術開発に警鐘が鳴らされているようにも思われ、教育現場でも対応が必要かと思っております。

このような社会情勢の中での本学の1年間を簡単に振り返って見ようと思います。明るい話題は、なんとと言っても総合研究棟が完成したこ

とです。未利用エネルギー研究センター、SVBLの活動拠点が完成し、飛躍の足がかりができたといえます。また昨年初めて、入学生の半数以上が本州出身の学生になりましたが、少子化時代に対応した学生獲得の方向性が見えてきたように思っています。



学内で議論いただいた大きな課題は、法人化に向けた取り組みでした。中期目標・計画をどのようにするか、就業規則の骨格、組織あるいは運営形態など、短時間に多くの方針を出してきましたので、皆さんに十分理解していただけたかどうか心配はあります。今後も情報公開を進め情報を共有しながら、4月の法人化に向け混乱が起こらないよう努力を続けたいと思いますので、御協力をいただきたいと思っております。

これらの学内議論と並行して、国会では7月には国立大学法人法が成立、10月にはこの法人法が施行されました。12月になって、次年度以降の予算配分に関する協議が、文部科学省と財務省との間で進められその内容が国立大学協会にも示されました。しかし、国立大学協会でも議論していた内容と大きく異なることから、12月に2度も国立大学協会の会議が開催され、文部科学省や関係省庁に要請書を出すなどの活動を起こしております。

なお、各大学の16年度予算は12月22日に内示がありました。幸い、本学の内示も総額では15年度以上の配分になっております。しかし、これまでの予算システムと異なり、法人移行に伴い人件費と物件費の区分のない運営などが求められております。この内示の中では、残念ながら1号館改築は認められませんでした。しかし、特別設備費が2件認められておりますので、これら内示についての詳細は総務委員会を通して報告させていただきます。

一方、17年度以降の運営交付金の算定ルール案は文部科学省と財務省で協議が続いており、今月中に決まると言われております。その概要は学長会議において提示されておりますが、効率化係数などが検討されており、厳しい状況を想定せざるを得ません。法人化に対して、積極的ではないにしろ賛同してきた学長としての責任は感じていますが、時代の流れを考えると「国立大学だけを特別扱いできない」とする、政府機関等の強い意見もあり、文部科学省としても妥協案の提案が限界のように思えます。

このように、法人化に対する不満・不安はあるものの、今は本学の今後の発展について議論する時期だと思っています。話が俗っぽくなりますが、暮れのテレビ放送でヤンキースの一員になった松井秀喜選手の番組が長時間流れていました。見られた方も多いと思いますが、松井

選手は数か月という短期間に、チームの一員となるべく自分の役割を自覚し、多くの結果を出し、そのことがジョー・トーリ監督に評価されチームメートにも認められたと思います。10億円プレーヤーから、ようやく1軍入りした選手まで、個性の強い集団であるのにもかかわらず、グラウンドでのチームワークの良さが映像からうかがい知ることができました。それは勝利という目標に向かったチームのまとまりだったと言えます。

法人化後の大学の運営をスポーツと同等に扱うことはできませんが、目標に向かってチームとして努力することが必要であるという点では共通しています。これまでの大学はチームプレーに対して積極的ではなかったと思います。しかし、これからは変わらなければなりません。今年届いた年賀状の中に、次のようなメッセージがありました。それは「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのではなく、唯一生き残るのは変化できる者である」という言葉です。これは、ダーウィンの進化論の一節のようですが、法人化とともに色々なことが変わります。今、大学はその変化に対応し、進化することが求められていると思います。

最後に、皆様のより一層の御協力と御支援をお願いするとともに、御多幸をお祈りし、新年の挨拶といたします。

= 会議 =

第8回運営諮問会議の開催

(総務課)

去る12月3日 本学第1会議室において第8回運営諮問会議が開催されました。

今回の会議では、「法人化に向けた動向」、「答申に対する本学の取り組み」について活発な意見交換が行われました。

会議要録は以下のとおり

第8回北見工業大学運営諮問会議要録

出席者 五十嵐 力 五十嵐建設(株)代表取締役  
 稲見 雅寿 北海道経済産業局長  
 神田 孝次 北見市長  
 熊谷 秀男 東京電波(株)代表取締役社長  
 小林 護 野村興産(株)イトム力鉱業所  
 常務取締役所長  
 丹保 憲仁 放送大学長  
 戸田 一夫 北海道電力(株)取締役相談役  
 吉村 宣夫 北見工業大学同窓会長

欠席者 五島 哲 東京急行電鉄(株)取締役調査役  
 森本 正夫 北海学園北見大学長

1 第7回北見工業大学運営諮問会議のまとめについて

事務局から、第7回北見工業大学運営諮問会議まとめの朗読があり、確認された。

2 法人化に向けた動向

常本学長から、資料に基づき説明の後、種々意見交換が行われた。

主な意見(大学説明)

今まで大学として経験したことのない法人化に向けた業務を行っていると思われるが、法人化への移行時期も決まっているので、残された期間、最大限の努力をしてほしい。中期目標・中期計画は公表しているのか。

ホームページで公表している。

就業規則は作成したのか。

原案はほぼ決まっており、来年の1月には過半数代表者との交渉を行う段階にきている。過半数代表者を選出することは大変だと思われるが。

職種別代表を選出する予定で提案している。

3 答申に対する本学の取り組みについて  
 組織運営関連

鮎田副学長から、資料に基づき説明の後、種々意見交換が行われた。

主な意見(大学説明)

大学独自で副学長を任命する計画であるが、この場合、複数の副学長の給与を同一にする予定なのか。

文部科学省にも確認したが、理事の中でも格差があってもかまわないし、決めるのは経営協議会であるとのことなので、格差を付ける方向で検討している。

理事・副学長、事務機構の概要は、事務局側から見た組織であり、大学としての組織ではないように見受けられるので検討すること。

教授会と学科、専攻の関係を整理してほしい。

学科、専攻、センターと教育研究評議会の関係を工夫すること。

教授会の審議内容を限定し、現在の教授会の役割を教育研究評議会で行うよう検討している。

教育関連

高橋副学長から、資料に基づき説明の後、種々意見交換が行われた。

主な意見 ( 大学説明)

留学生の数は、他大学も同じような状況か。最近の理工系は、20%程度に達している。工学部に入学しても、何をやったら良いか分からないという学生が見受けられるが、これは大変憂慮すべき事態である。もの創り工房を設置する予定であるが、そこで体験する教育を経験させて、本当にやる事が分からないのならば、進路変更の指導をすることも本人のためではないか。もの創り的な科目を早い時期から導入するよう検討していきたい。TOEICの成績は把握しているのか。まだスタートしていないが、大学院の1年目から受験させるようにしたい。網走管内の学生が占める割合はどのくらいか。約1割程度である。地域的な特別選抜は実施していないのか。実施していない。

研究関連

鮎田副学長から、資料に基づき説明の後、種々意見交換が行われた。

主な意見 ( 大学説明)

任期制の規程はこれから議論を進めていくのか。基本的なところは合意を得ているが、再任の条件を明確にしてもらいたいとの意見があるので、検討していきたい。3年間の再任は厳しすぎる感じがする。最初の5年間の中間でも評価を行い、改善の指示が出せるので、問題がないと考えている。任期制については、いろいろな考え方があるので、あまり頑なに考えないように対応した方がよい。5年問題のある教官を少なくすることと、緊張感のある教育研究環境にすることが目的であると説明している。外部資金の獲得は、北見工業大学しか取り

組んでいない特化した研究を行わなければいけない。学科の壁を超えたプロジェクトを組む意識が必要である。

社会貢献

大島附属図書館長から、資料に基づき説明の後、種々意見交換が行われた。

主な意見 ( 大学説明)

産学官の連携を行う上では、どの先生が、どのようなテーマで、どこの機関からいくらの資金を得て、誰と研究しているのかという情報が必要であるが、大学では、把握できていないのが現状である。それらの情報を早く調査して提供してほしい。現在求められている人材は、チャレンジャーであり、そういう人材を育てて行くには、マンモス大学ではなく北見工業大学のような単科大学が適しているように思われる。少人数でもかまわないから、しっかりした知識を持った学生を輩出してほしい。

国際交流関連

鮎田副学長から、資料に基づき説明の後、種々意見交換が行われた。

主な意見 ( 大学説明)

第2外国語は開講しているのか。ドイツ語を開講している。ドイツ語の必要度はかなり減ってきている。国際交流協定を増やすだけでは良くない。特徴を明確にした交流を考える必要がある。交流地域を絞って、その国の語学を習得させるような工夫も必要ではないか。

以上、意見交換の後、審議が終了した。審議終了後、学長から謝辞が述べられ閉会した。

= 入試 =

(入学主幹)

平成16年度推薦入学試験の実施

平成16年度推薦入学試験は、小論文及び面接による選抜が12月5日に実施され、12月17日に合格発表が行われました。

各学科別の合格者等については下表のとおりです。

学 科 名	募集人員	志願者	合格者
機械システム工学科	12	22	14
電気電子工学科	8	15	12
情報システム工学科	10	21	12
化学システム工学科	12	16	15
機能材料工学科	6	6	6
土木開発工学科	12	17	14
計	60	97	73

平成16年度大学入試センター試験の実施

平成16年度大学入試センター試験が、1月17日、18日の両日、大雪の影響を受け開始時刻を1時間繰り下げて実施されました。

本学会場の志願者数は昨年度より25人減の716人となりました。

また、雪害により受験できなかった者を対象とした再試験が、1月24日(土)、本学を会場に実施されました。

= 研究助成 =

平成15年度科学研究費補助金交付決定

○基盤研究(C)(2)一般

(総務課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付決定額
土木開発工学科	教 授	前田 寛之	北海道知床半島における新生代火山－熱水活動と浅熱水性金銀銅鉛亜鉛鉱化作用との関係	千円 800 (平成16年度 500千円) (平成17年度 500千円) (平成18年度 800千円)

### 平成16年度科学研究費補助金の申請状況

(総務課)

研究種目等	機械システム		電気電子		情報システム		化学システム		機能材料		土木開発		共通講座		センター等		合計		
	件	千円	件	千円	件	千円	件	千円											
特別推進研究																			
特定領域研究(計画)							2	17,246									2	17,246	
特定領域研究(公募)																			
基盤研究(S)																			
基盤研究(A)(一般)									1	7,550							1	7,550	
基盤研究(A)(海外学術調査)											1	10,000			(1) 1	(2,100) 2,100	(1) 2	(2,100) 12,100	
基盤研究(B)(一般)	5	53,460			(1) 3	(2,300) 14,974	2	10,660	(1) 2	(3,500) 7,664	4	16,994	(1) 1	(2,900) 2,900			(3) 17	(8,700) 106,652	
基盤研究(B)(海外学術調査)							1	14,500			1	5,800	(1) 1	(1,900) 1,900	1	3,000	(1) 4	(1,900) 25,200	
基盤研究(C)(一般)	(1) 8	(900) 19,327	(1) 13	(1,400) 33,893	(2) 10	(1,100) 21,674	(2) 8	(1,300) 1,7016	(3) 7	(2,100) 13,613	(2) 11	(2,300) 26,410			(1) 2	(2,200) 5,160	(12) 61	(11,300) 140,323	
基盤研究(C)(企画調査)											1	5,000					1	5,000	
萌芽研究	(1) 3	(100) 4,908					5	8,416	1	3,310	3	6,160	1	2,800	3	7,190		(1) 16	(100) 32,784
若手研究(A)							1	10,450	1	7,922								2	18,372
若手研究(B)	(1) 2	(1,700) 4,655	3	8,003	(4) 6	(3,000) 9,036	(1) 2	(800) 2,150	(1) 3	(700) 4,486	(1) 2	(500) 3,091			(2) 2	(900) 900	(10) 20	(7,600) 32,321	
計	(3) 18	(2,700) 82,350	(1) 16	(1,400) 41,896	(7) 24	(6,400) 54,100	(3) 17	(2,100) 75,332	(5) 17	(6,300) 47,395	(3) 21	(2,800) 70,095	(2) 7	(4,800) 15,220	(4) 6	(5,200) 11,160	(28) 126	(31,700) 397,548	

※備考 1 上段( )内は継続課題の内定金額で内数 2 金額は平成16年度申請(内約)額

### 平成15年度国際研究集会派遣研究員(第Ⅲ期)決定

(総務課)

所 属	職 名	氏 名	会 議 名	開催地	開催期間
機能材料工学科	助 手	川村みどり	材料研究学会2003年秋季大会	アメリカ	15.12.1~ 15.12.5

### 平成15年度(財)トステム建材産業振興財団助成金交付決定

(総務課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
機械システム工学科	教 授	坂本 弘志	室内VOC濃度と建材・施工材等および室内換気との関係に関する調査研究	千円 1,800

## 平成15年度民間等との共同研究の受入状況

(総務課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等名
機械システム工学科	教 授	二俣 正美	複合溶射線材製造工程におけるスウェーピング加工の効果に関する調査研究	(財)北海道科学技術総合振興センター
機械システム工学科	教 授	二俣 正美	溶射線材の製造手法における調査研究	(財)北海道科学技術総合振興センター
土木開発工学科	助教授	櫻井 宏	バーク灰及びホタテの貝殻を利用したエコ・コンクリート製品の開発	(株) イワクラ
機械システム工学科	助教授	松村 昌典	ウォーター・ジェットによるサケ鼻軟骨採取システムの技術開発	(株) 角 弘
機械システム工学科	助教授	鈴木聡一郎	GPSを利用した自律型除雪ロボットの制御機構に関する研究	(株)オホーツク位置情報サービス
電気電子工学科	助教授	熊耳 浩	GPS/GISを用いた除雪支援システムの開発	斜里建設工業(株)
留学生教育相談室	講 師	菅野 亨	多孔性材料アロフェンの物性評価に関する研究	(株) ホ ッ コ ン
土木開発工学科	教 授	大島 俊之	構造維持補修のための補修材料の機能評価	(有) フ ィ ー マ
機械システム工学科	助教授	鈴木聡一郎	リアルタイムスキーインストラクションシステムの開発	(有)キャンプダンガリー
土木開発工学科	教 授	大島 俊之	耐震に着目した橋梁の維持管理に関する調査研究	(株)ズコーシャ

平成15年度累計 76件

## 平成15年度受託研究の受入状況

(会計課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目及び研究期間	委託機関	所要経費 <sup>円</sup>
機能材料工学科	教 授	高橋 信夫	永久凍土地帯のメタンハイドレートの安定性と生成解離に係るNMR法によるガスハイドレートの安定性と構造に関する研究 平成15年10月～平成16年2月	独立行政法人産業技術総合研究所	1,362,000

平成15年度累計 12件

### 平成15年度奨学寄附金の受入状況

(会 計 課)

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額
土木開発工学科	助教授	三上 修一	「土木開発工学科」に対する研究助成	(株)日本鉄鋼連盟	400,000 <sup>H)</sup>
土木開発工学科	教務職員	白川 龍生	「自動車の周波数特性を利用した路面プロファイル推定システムの開発」に対する研究助成	白川龍生(㈱佐川交通社会財団)	1,000,000
土木開発工学科	教 授	大島 俊之	「橋梁の動的解析と耐震補強設計に関する研究」に対する研究助成	(株)構造技研	500,000
機械システム工学科	教 授	小林 道明	「ポリカーボネートシートの表面残留応力の測定に関する研究」に対する研究助成	三菱瓦斯化学(株)	500,000
電気電子工学科	教 授	田村 淳二	「風力発電システムの運転効率算定」に対する研究助成	(株)日立製作所 日立研究所	150,000
共 通 講 座	助教授	小川 芳樹	「言語学の研究」に対する研究助成	小川 芳樹	50,000
機械システム工学科	教 授	坂本 弘志	「アイシネン(気密断熱材)の断熱・透湿試験」に対する研究助成	キングラン(株)	500,000
電気電子工学科	助教授	平山 浩一	「誘電率測定法に関する研究」に対する研究助成	(株)関東電子 応用 開 発	300,000
地域共同研究センター	助教授	有田 敏彦	「産学官連携による地域資源開発」に対する研究助成	(株)福地工業	100,000
機能材料工学科	助教授	宇都 正幸	「機能性材料の開発」に対する研究助成	(株)福地工業	100,000
化学システム工学科	助 手	齋藤 伸吾	「工学研究」に対する研究助成	(株)シノテスト	500,000
機械システム工学科	教 授	坂本 弘志	「住宅・建材産業に関する調査および研究」に対する研究助成	(株)トステム建材 産業 振 興 財 団	1,800,000
化学システム工学科	教 授	小林 正義	「天然ゼオライト分析」に対する研究助成	(株)山上本社	200,000

平成15年度累計 71件

## =人事=

## 人 事 異 動

(総務課)

## ○大学発令

発令年月日	現 官 職	氏 名	異 動 内 容
15. 11. 17		古澤 彰彦	総務課(総務係)に臨時的に任用する 任期は平成16年3月31日までとする
15. 12. 15		坪田 豊	文部科学技官(土木開発工学科)に採用する
16. 1. 1		青山 政和	教授(化学システム工学科)に採用する

## 新 任 者 紹 介

総務課文部科学事務官に ふるさわ 古澤 あきひこ 彰彦 氏

昭57. 8. 29生

平15. 3 札幌テクノパーク専門学校情報システム科卒業

15. 4 財団法人北見市体育協会

15. 11 北見工業大学総務課



土木開発工学科文部科学技官に つぼた 坪田 ゆたか 豊 氏

昭51. 9. 8生

平13. 3 京都大学大学院工学研究科修士課程修了

13. 4 株式会社野村総合研究所

15. 2 有限会社あいあい

15. 9 国家公務員採用 種試験合格(土木)

15. 12 北見工業大学工学部(技術部・土木開発工学科)



化学システム工学科教授に <sup>あおやま</sup> <sup>まさかず</sup> 青山 政和 氏

- 昭24. 1. 1生  
 昭53. 3 北海道大学大学院農学研究科博士後期課程修了  
 53. 3 農学博士(北海道大学)  
 53. 4 北海道大学農学部研究生  
 55. 8 北海道立林産試験場林産化学部化学利用科研究職員  
 63. 4 " 利用部成分利用科研究職員  
 平元. 5 " " 成分利用科長  
 11. 5 " きのこ部主任研究員  
 15. 6 " 利用部主任研究員  
 16. 1 北見工業大学工学部教授



## 海 外 渡 航

### ○外国出張

所 属	職 名	氏 名	渡 航 目 的 及 び 渡 航 先 国	期 間
共 通 講 座	助 教 授	小 川 芳 樹	言語学に関する意見交換と資料収集 (アメリカ合衆国)	15.11.3~ 15.11.12
化学システム工学科	教 授	小 林 正 義	第5回国際膜科学工学会議参加及び講演 (オーストラリア)	15.11.5~ 15.11.16
土木開発工学科	教 授	佐 渡 公 明	第24回アジアリモートセンシング会議及 び2003年国際リモートセンシングシンポ ジウムにて研究発表 (大韓民国)	15.11.6~ 15.11.9

所 属	職 名	氏 名	渡 航 目 的 及 び 渡 航 先 国	期 間
機械システム工学科	助 教 授	閻 紀 旺	第6回先端砥粒加工技術に関する国際シンポジウム参加及び研究発表 (イギリス連合王国)	15.11.13~ 15.11.24
機械システム工学科	教 授	田 牧 純 一	第6回先端砥粒加工技術に関する国際シンポジウム参加及び研究発表並びに海外の砥粒加工技術の動向調査 (イギリス連合王国)	15.11.16~ 15.11.23
機械システム工学科	教 授	佐々木 正 史	第45次南極地域観測(越冬)参加 (南極地域)	15.11.27~ 17.3.29
機能材料工学科	助 手	川 村 みどり	2003年材料研究学会秋季大会参加及び研究発表 (アメリカ合衆国)	15.11.30~ 15.12.7
機能材料工学科	助 手	石 川 和 宏	2003年材料研究学会秋季大会にて研究発表及び討論 (アメリカ合衆国)	15.11.30~ 15.12.7
機械システム工学科	助 教 授	鈴 木 聡一郎	国際会議ICMIT2003にて研究発表 (大韓民国)	15.12.4~ 15.12.7
化学システム工学科	助 教 授	伊 藤 純 一	第12回フローインジェクションアナリシス国際会議出席 (ベネズエラ共和国)	15.12.4~ 15.12.15
機能材料工学科	教 授	青 木 清	水素誘起アモルファス化に関する講演及び共同研究打合せ (大韓民国)	15.12.8~ 15.12.11
情報システム工学科	助 手	原 田 建 治	第5回レーザー及び電気光学に関する環太平洋国際会議にて研究発表 (台湾)	15.12.14~ 15.12.20
化学システム工学科	助 教 授	山 田 哲 夫	重慶南桐炭のクリーン、高効率利用法の一環としてバイオブリケットのガス化に関する情報交換 (中華人民共和国)	15.12.23~ 15.12.29

## ○海外研修

所 属	職 名	氏 名	渡 航 目 的 及 び 渡 航 先 国	期 間
共 通 講 座	教 授	下 村 五三夫	学位論文準備と調査研究 (ポーランド共和国)	15.12.22~ 16.1.16

= 国際交流 =

## 日本留学フェア(ベトナム・タイ)参加報告

留学生教育相談室 菅野 亨  
入学主幹付入学試験係 坂田 寿

### 1. はじめに

10月29日、30日及び11月1日、2日にそれぞれベトナムのホーチミン市及びタイのバンコク市において、文部科学省補助事業AIEJ(財団法人 日本国際教育協会)主催の“2003年日本留学フェア”に参加しました。本事業は毎年東京、大阪地区で行われている“外国人学生のための進学説明会”の現地版と言えるもので、上記2か国のほかに、韓国で9月に開催され、マレーシアとインドネシアにおいても平成16年2月に予定されています。(中国、台湾はSARSの影響で中止となりました。)

本学では留学生受入数の増大を図るために、平成10年度より積極的かつ計画的に日本留学フェアに参加しており、ベトナムは平成14年、タイは平成10年に続いて本学としては2回目の参加となりました。この紙面をお借りして、両国での日本留学フェア参加の報告をさせていただきますと思います。

### 2. ベトナム ホーチミン市

ホーチミン市にはバンコク経由(飛行時間約6時間30分)で28日の午後8時過ぎに到着しました。空港にはAIEJの通訳の方がバスで迎えに

来ており、スムーズにホテルにチェックインすることができました。ホーチミン市は、北緯10度付近の熱帯地域に位置し、私たちが訪れた10月末でも日中の気温は30度を超えていました。人口は2002年度で約600万人、特筆すべきはバイクが公称200万台(おそらく実数はそれ以上)で、まさに道路はバイクの洪水といえる状態でした(写真1)。

翌29日に、オープニングセレモニーが行われ(写真2)、29日、30日両日とも午後12時から7時まで各個別コンサルテーションブースを開設しました。総来場者数は平日にもかかわらず2,002名で、昨年より100名以上増加しました。来場者のなかには、10数台のバスで近郊の町から来た高校生のグループが3つほどあり、彼らの真剣な表情から日本留学への関心の高さがうかがわれました(写真3)。個別コンサルテーション(40ブース)のほかに、日本留学プロモーションビデオ上映、日本留学概要説明、日本留学模擬試験、奨学金等説明、日本留学体験談からなる全体オリエンテーションも行われていました。

本学のブースには、ホーチミン市国家大学傘下社会科学人文大学に在学中で大阪産業大学に



写真1. ベトナム ホーチミン市におけるバイクの洪水



写真2. オープニングセレモニー(ホーチミン市)



写真3. 日本留学フェアに訪れた高校生

1年間留学経験を持つキムさんという女性が、通訳として面談者との対応にあたってくれました(写真4)。入学試験、学費、奨学金、寮等に関することが面談者の一般的な質問であり、さらに北見の気候や生活についても興味を持つ方が多くおりました。



写真4. 通訳のキムさん(中央)

### 3. タイ バンコク市

バンコクはホーチミン市より3度ほど北に位置し両市間の飛行時間は1時間30分ほどですが、その間に機内食(昼食)が出され、忙しく働く客室乗務員の方々が気の毒に思えるほどでした。AIEJの通訳の方の出迎えを受け、乗り込んだバスから見る景色は高層ビルが立ち並び、想像していたタイのイメージからかけ離れたまさに大都会でした(写真5)。宿舍及び会場となったホテルも日本人フロントと日本人のコンシェルジュ付きの高級ホテルでした。

日本留学フェアへの総来場者数は3,417名と



写真5. 空港からホテルへ向かうバスからみたバンコク市

前回(2,503名)より大幅に増加し、日本留学人気は一層高まっている様子でした(写真6)。ホーチミンと同様、全体オリエンテーションと個別コンサルテーション(53ブース)があり、11月1日、2日とも午前11時~午後6時まで個別コンサルテーションを行いました。通訳は、CHULACHOMKLAO ROYAL MILITARY ACADEMYで電気工学を教えているソムチャイ氏で、防衛大学校を含めて7年の在日経験を持つ若手研究者でありました(写真7)。彼の話によりますと、タイでは学部教育は本国で、大学院教育は海外で受けるという考えが一般的であり、本学面談者49名のうち37名が大学院希望者で彼の言葉を裏付ける結果となりました。しかし、本学の大学院入試・入学に関する資料が少なく、タイの日本留学フェアに関しては、もっと多く持参していくべきだったと反省しています。また、予備知識がなかった点として、タイ国政府が認定する海外大学という制度があ



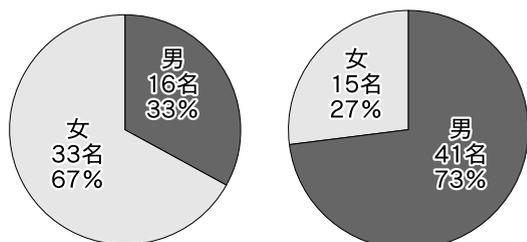
写真6. バンコクにおける日本留学フェアの会場風景

り、特に公務員になる場合に認定海外大学出身でなければ多少の不利益が生ずることがあるかもしれないとのことでした。

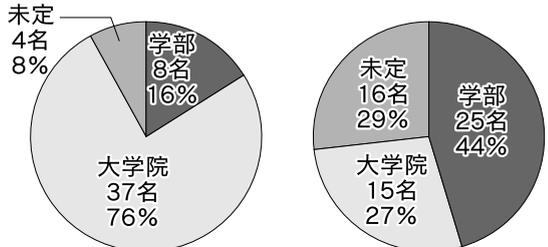


写真7. 通訳のソムチャイ氏(右)

(タイ) 性別 (ベトナム)



(タイ) 志望 (ベトナム)



(タイ) 志望分野 (ベトナム)

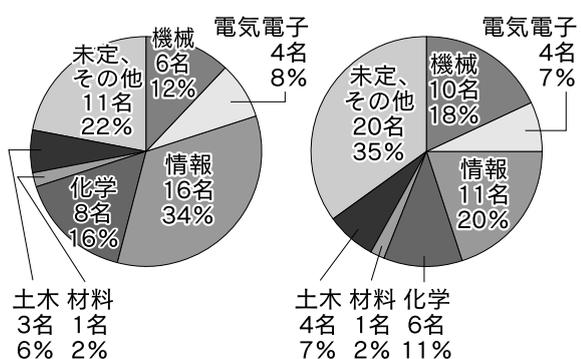


図1 . 日本留学フェアにおけるベトナムとタイの面談者の比較

4. ベトナムとタイの面談者内訳の比較

両国の面談者の傾向を、性別・志望・志望分野別に図1に表してみました。男性/女性内訳はベトナムでは男性が73%であったのに対し、タイでは女性が67%と逆転現象がみられました。タイでは女性の社会進出が著しいということなのでしょうが、この高い女性の比率には驚きました。次に学部/大学院別では、タイにおける大学院希望者が76%と高い一方、ベトナムでは15%であり、またも対照的な結果となりました。この結果は、先にも述べましたが、タイの海外留学に対する一般的な考え方を反映していると言えます。また、ベトナムの面談者の中に高校生が相当数含まれていることが、学部希望者及び未定者が多いという結果になっていると思われるかもしれません。志望分野別では両国とも情報系が最も多くなりましたが、予想よりも様々な分野に広く分布していることがわかりました。

5. 雑感

ベトナム及びタイは、アジアの中では中国についてそれぞれ2位、3位のGDP成長率を誇り、経済的な発展が著しく、1997年のアジア通貨危機を短期間で乗り越えた経済の優等生であると言えます。また、両国と日本の経済的結びつきは非常に強く、貿易額では、ベトナムから見た日本への輸出は第1位、輸入第3位、タイから見た日本への輸出は第2位、輸入は第1位です。さらに、両国とも日本留学フェアの運営はスムーズかつよくオーガナイズされ、これは勤勉でまじめな国民性を反映したものであることを強く感じました。

しかし、日本への留学生10万人のうち、タイは1.6%、ベトナムは1.2%を占めるにすぎません。本学においても両国からの留学生受入実績はまだありませんが、日本留学フェアでの熱気から察するに、両国からまず1人でも受入を行ったならそれをきっかけに、留学生が短期間で増加していくことが予想されます。そのための生活支援、宿舎等の環境整備を本学は進めており、両国から本学への留学生第1号の誕生を期待しております。

最後になりましたが、私たちにこのような貴重な機会を与えていただきました常本学長、山

岸留学生教育相談室長をはじめ学内関係者の方々に感謝申し上げます。

## 中華人民共和国武漢科技大学校長による特別講演会の開催

(総務課)

11月20日、本学と学術・教育交流協定関係にある武漢科技大学から刘光臨(Liu Guanglin)校長を始めとする5名の訪問団が来学されたのを機に、本学第1会議室において同校長による特別講演会が催されました。

講演題目は、「Enhancing teaching supervisal and management,increasing teaching quality」で、武漢科技大学における授業評価と教育の質の向上のための取り組みについて詳

細な紹介がありました。国や制度は異なりますが、本学の教育活動の点検・評価にも参考となる内容で、講演後も活発な質疑応答が行われるなど、非常に有意義な機会となりました。

なお、武漢科技大学訪問団は、同日の講演会の他に、本学運営会議構成員との懇談会や学内視察等のスケジュールの後、帰国されました。

今後も両大学の交流推進が期待されるところです。



刘光臨(Liu Guanglin)校長(右)の講演



武漢科技大学訪問団

= 諸報 =

北見工業大学永年勤務者表彰式及び文部科学省永年勤続者表彰伝達式

(総務課)

平成15年度北見工業大学永年勤務者表彰式及び文部科学省永年勤続者表彰伝達式が11月21日午後4時から第1会議室において行われました。

本学永年勤務者表彰被表彰者に対し、学長から表彰状の授与並びに記念品の贈呈があり、文部科学省永年勤続者表彰被表彰者には文部科学大臣からの表彰状の伝達及び記念品の贈呈がありました。

引き続き祝賀会が開催されました。  
被表彰者は、次のとおりです。(50音順)

北見工業大学永年勤務者表彰

30年勤務者

氏 名	所属学科等
岡田 包儀	技 術 部
小野 恵子	学 生 課
鈴木 一央	共 通 講 座
平田 広昭	技 術 部
水口 建	学 生 課

20年勤務者

氏 名	所属学科等
菅野 亨	留学生教育相談室
佐藤 満弘	機械システム工学科
森脇 幸伸	技 術 部

10年勤務者

氏 名	所属学科等
後藤 文太郎	情報システム工学科
庄子 仁	未利用エネルギー研究センター
鈴木 茂人	情報システム工学科
鈴木 聡一郎	機械システム工学科
谷口 秀俊	施 設 課
中垣 淳	情報システム工学科
三木 康臣	機械システム工学科
山田 忠永	技 術 部

文部科学省永年勤続者表彰

20年勤続者

氏 名	所属課・職名
下坂 昌巳	会計課・会計課長



## ファカルティ・ディベロップメント研修会を開催

(教務課)

11月28日、29日の両日にわたり、各学科等から20名が参加しファカルティ・ディベロップメントに関する研修会を1泊2日の日程により近郊のホテルで実施しました。本年度で4回目となるこの研修会は、課題により3班に分かれての

分科会・討論並びに分科会の報告会を実施し、それぞれにおいて活発な意見交換が行われました。

今後は、この研修結果を受けて、学生教育の改善に当たることとしています。



研修会の実施にあたって挨拶をする高橋副学長



報告会で発表する二俣教授

## 海外衛星放送受信システムを設置

(教務課)

本学では、このたび文部科学省からの経費の措置を受け、留学生にとってより一層魅力ある環境の整備の一環として海外衛星放送受信システムを導入し、構内に直径3mのパラボラアンテナを2基設置しました。

まずは留学生数の多い中国及びマレーシア地域の放送について、インターナショナルラウンジで視聴できるように整備をしました。

海外の情報をリアルタイムで受信できる本システムの稼働は、留学生の間で大変好評であり、

インターナショナルラウンジは、昼休みや授業の合間を利用して母国の放送を楽しむ留学生で、これまで以上の賑わいをみせています。



## = 日誌 =

(総務課)

11月2日	ベトナム・タイ日本留学フェア (10月29日～)	12月2日	学生委員会
3日	土木開発工学科JABEE審査受審 (～5日)	3日	第8回運営諮問会議
5日	北苑寮消防訓練	4日	JABEE情報交換会 地域共同研究センター第17回特別講演会
6日	人事委員会	5日	推薦入学試験
7日	総務委員会 大学院専攻主任会議	6日	リーダーシップトレーニングセミナー(～7日)
10日	第17回大学改革特別委員会	8日	第19回大学改革特別委員会 推薦入学者選抜実施委員会 地域共同研究センター兼任教官会議
11日	サテライト・ベンチャービジネス・ ラボラトリーGIS・GPS研究会 学生委員会	9日	人事委員会
13日	地域共同研究センター第3回公開セミナー	10日	総務委員会
14日	入学者選抜委員会 推薦入学者選抜実施委員会	11日	教務委員会
16日	工業英語能力検定試験	12日	大学院専攻主任会議
17日	第3回公開講座(～12月3日) 地域共同研究センター推進員会議	13日	TOEIC IPテスト
19日	第667回教授会 第138回研究科委員会	15日	地域共同研究センター第18回特別講演会
20日	武漢科技大学校長特別講演会 第4回公開講座(～12月9日) 地域共同研究センター第15回特別講演会	16日	入学試験実施委員会 入学者選抜委員会
21日	北見工業大学永年勤務者表彰 文部科学省永年勤続者表彰伝達式	17日	第668回教授会 第139回研究科委員会 推薦入学合格者発表
25日	教務委員会 地域共同研究センター第2回技術セミナー	19日	附属図書館委員会 就職ガイダンス
27日	第18回大学改革特別委員会 推薦入学者選抜実施委員会 地域共同研究センター第16回特別講演会	22日	第20回大学改革特別委員会 情報システム運営委員会 4年次再試験 冬季休業日(～1月16日)
28日	ファカルティ・ディベロップメント 研修会(～29日)	24日	サイエンス・パートナーシップ・プログラム事業
		25日	入学者選抜委員会
		26日	サイエンス・パートナーシップ・プログラム事業 御用納め

※この学報は再生紙を使用しています。